
Bクラス代表の卑怯者に憑依した話

どりーむ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Bクラス代表の卑怯者に憑依した話

【Nコード】

N9225X

【作者名】

どりーむ

【あらすじ】

卑怯者と名高いBクラスの代表に憑依した主人公が女装されるのを防ぐお話。

Bクラス戦後の話もしますよ！

0 問目 状況把握（前書き）

おそらく誰も思いつかなかったと思います、始めました。

ではどうぞ。

0 問目 状況把握

全く、残念すぎて涙が出てくるよ。

どうやら俺は俗に言う『憑依』というやつを経験してるらしい。

憑依した人物は根本恭二。

バカとテストと召喚獣とかいうライトノベルのキャラクターの一人らしい。

二次創作でしか読んだことないがこいつはかなりの卑怯者らしいな。

3

しかも主人公達Fクラスに試験召喚戦争、ようはクラス対抗みたいなモンだな。
それに負けて女装させられていたはず……

おいおいふざけんな！
女装なんて絶対嫌だぞ俺は！！

こうなったら原作なんて関係ねえ！
絶対に女装から逃げ切ってやる！！

Bクラスの生徒達は語る。

二年に上がった時からあいつは何かを取り憑いたかのように人が変わった。

5.

0 問目 状況把握（後書き）

感想お待ちしています。

設定（前書き）

設定です。

随時更新予定。

設定

憑依後の根本恭二

憑依してからなぜか顔が凛々しくなった。

髪が気に入らなかったらしく、黒く染めてオールバックにした。

憑依してから主人公が身体を鍛え始めた為、少しずつ体力が付き、細く引き締まった身体になっていく。

Cクラスの小山とは別れた。

点数

数学が500点代で科学と物理は400点代。

現国と英語は300点代

古文と歴史は90点代

後は原作と変わらず。

見てわかる通り理数系が得意。

召喚獣

憑依後の根本がデフォルメされた感じで傭兵の様な服装。

武器はガンソード。

銃弾一発発射につき5点消費されていき、3分に一回オートリロードされる。

オートリロードは銃弾一発につき2点消費されていく。

腕輪

【覚醒】

150点消費で発動。

召喚獣の能力が底上げされ、銃弾発射とオートリロードの消費点数がなくなる。

この状態の時は召喚獣のダメージが自分にも発生、いわば観察処分者と同じ状態となる。

設定（後書き）

感想お待ちしています。

1 問目 校門前にて。(前書き)

とりあえず本編一話投稿。

鉄人って難しいですね。

1 問目 校門前にて。

「おはようございます西村先生」

「……………お前まさか根本か？」

よお、俺だよ。

卑怯者と名高い根本に憑依した俺だよ。

今校門前に突っ立ってる鉄人こと西村先生に挨拶した所だ。

どうやら驚いてるみたいだな。

まあ無理もないよな、俺だってこれ本当に根本か？って思ったからな。

「相談ならいつでも来いよ。茶くらいはいれてやる。」

どうやら俺の事を心配しているようだ。

「機会があったら世話になります。それよりも先生、こんな所にずっと立ってるんですから生徒に用事でもあるのでしょうか？」

「あ、ああ……………」

あの鉄人がここまで驚くとはな。

こんなに驚かれるとなんだか大掛かりな悪戯が成功した時並みに嬉しさがこみ上げてくるぞ。

正氣に戻った鉄人が俺に渡してきたのは一つの封筒だった。たしかこいつにクラス先が入ってるんだよな。

「根本。」

「なんですか？」

「俺は今までお前のやってきた事が本当に残念だと思っていた。現に今脅しをかけてやるうと思っていたからな。」

こいつ今生徒を脅すとか言いやがったぞ。

こんな教師がいて大丈夫なのか文月学園よ。

「だがな、今のお前を見て気が変わった。まるで人が変わったかのようにだ。いや見た目だけではない、内面もだ。それに確固たる意志を感じる」

おいおいまずいんじゃないの？

憑依生活初日に感づかれるってどうなのよこれ。

「だからお前にはこう言っておく。高校生活、楽しむんだぞ。勿論勉強にも力を入れるように。それでは自分のクラスに行け」

なんだ、鉄人って以外といい人じゃないか。
そして俺は自分のクラスに向かった。

勿論クラスはBクラス、もちろん代表だぞ。

1 問目 校門前にて。
(後書き)

感想お待ちしています。

2 問目 クラスにて。(前書き)

一ヶ月に4回投稿するつもりです。

2問目 クラスにて。

「ここがBクラスか……」

よお、俺だよ。

卑怯者と名高い根本に憑依した俺だよ。

今Bクラス前にやつと着いた所だ。

ちなみに現在時刻は8：20分。おかしいな8時にはクラスに着いてる予定だったんだが……

遅れた理由としてはたどり着く前にいるんな教師に呼び止められたのが原因だろうな。

なんかすげー心配になった。

これ絶対に憑依されるのバレルだろ、と

あとなんか女子が1人俺の前に現れるなりいきなり今の俺をすげー拒絶しだした。

「こんなの恭二じゃない！」

とか

「昨日までの恭二に戻ってよお……」

とか言ってきやがった。

それにしてもこいつ妙に馴れ馴れしい。

うん、俺こいつ嫌いだ。

なんかヒステリックなオーラ出してるしな。

とりあえずお前は俺のなんなんだとかうぎったいから近づくなとか言っただけなら逆ギレしてキーキー言い出したから逃げてきた。

なんだっただなあいつ。

そして冒頭に戻るってわけだ。

「さて、どんな反応をするのかね……」

そう呟いて俺はドアを開けてBクラスに入っていく。

なんだ、なかなかいい設備じゃないか。

まあ来る途中に見かけたAクラスの設備と比べると見劣りはしてしまいが……

Bクラスでここまでの設備なのだからDクラスでごく普通の高校の教室と同じって感じかな。

そしてクラスの奴らの視線が痛い……

もう視線耐性は付いたとか入る前にふと思ったけどこれは無理だ。圧倒的数の視線には負ける、これは負けるに決まってる。

なんとか視線に耐えながら空いている席に座る事が出来た俺はまだ襲い来る視線から逃げ出す為に一眠りする事にした。

てか窓際一番後ろが空いてるってどういう事だよ。普通ありえねーだろこんな良席空いてるなんて。

「……………てください……………」

ん……………？

「起きてください……」

あ、もしかして授業中か。

これは新学期初日からよろしくない事をしたな……

「今は自己紹介をして残りは貴方だけですよ。」

「すみません、疲れが溜まっています。」

適当に言い訳を言い、俺は立ち上がりクラスの皆を見回して話を始める事にした。

「根本恭二、一応Bクラス代表だ。よろしく。」

俺が根本恭二だとわかった途端、クラスが騒がしくなった。

「ええ！？根本!?!」

「こいつ根本なのか!?!」

「でも根本がクラス代表かよ……」

「なんだかっかしい……」

おい最後おかしかったぞ。

まあいい、俺は話を続ける事にした。

「試験召喚戦争についてだがBクラスでこの設備なんだ、十分に満足できると思う。だから試験召喚戦争はこちらからは仕掛けない方

向で考えている。だが仕掛けられたらその時は全力を持って返り討ちにしてやるうじゃないか。」

皆もそう思っていたらしく割とあっさり納得してくれた。すると一人の男子が俺に質問をしてきた。

「お前……一体どうしたんだ？」

随分とアバウトな質問だな。

さてなんと答えようか……

おっと、大事な事を忘れていた。

これやっておかないと間違いなく皆ついてきてくれられないからな。

「今までにやってきた事だが……本当にすまなかったと思っている。これからはそんな事をしないように真つ当にやっていくつもりだ。皆の弱みも全て手放した。見た目については俺なりのけじめのつもりだ。」

まあ全部身に覚えがないから理由は全てでっち上げなんだがな。でも酷かったぞこいつ。

いろんな人の弱みが書いてある手帳みたいな物があったんだがすげーみっしり書いてあるんだもん。すげードン引きした。

だからこの程度で許されるとは俺は思っていない。まあ建前というやつだ。

俺は言いたい事を言いきって席に座る。

クラスの皆は呆気に取られてるな。

しばらくこの空気が流れた後、先生が上手く纏めてくれた。

そしてFクラスがDクラスに宣戦布告をしたらしい。

たしかDの次はBクラス、つまり俺達に宣戦布告をしてくるはずだ。

うる覚えだが奴の戦術も知っているし対策立てておかないとな……

……

2 問目 クラスにて。
(後書き)

感想お待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9225x/>

Bクラス代表の卑怯者に憑依した話

2011年10月26日12時59分発行